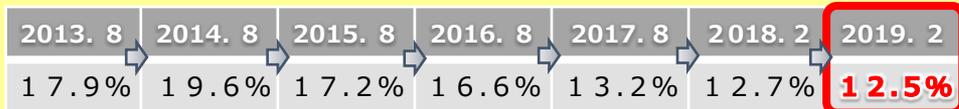


放射線に関するリスクコミュニケーション（正確な情報・知識の普及）

＜食品の購入に際しての調査＞

（食品中の放射性物質を気にする人のうち、）
「福島県産品の購入をためらう」と回答した人の割合



＜食品中の放射性物質検査について＞

検査が行われていることを
「知らない」
 ⇨ **44.8%**（前回36.0%）

【出典】消費者庁調査



【正確な情報を伝える】

- ・空間放射線量の測定結果（海外との比較）
- ・東京電力福島第一原子力発電所の状況
- ・農産物の生産段階での管理体制（GAPの取得推進等）
- ・世界で最も厳しい基準による食品の徹底したモニタリング検査の実施と結果 など

【放射線に関する知識を伝える】

- ・身の回りには日常的に放射線が存在
- ・放射線はうつらない
- ・放射線による遺伝性影響は出ない
- ・放射線の健康影響は、放射線の「有無」ではなく「量」 など

国、市町村等と連携を図りながら、「正確な情報」と「知識」を併せて伝える

「放射線に関する不安」の解消
 = 風評の払拭

取組を進める上での工夫

- 各種モニタリング検査結果は、その評価についても発信し、分かりやすい公表に努める
- 放射線に関する偏見や誤解など事実と異なる情報に対しては、速やかに正確な情報を発信し、誤解等の拡散を防ぐ
- 関係部局との連携を更に強化し、情報の一元化など、様々な工夫により分かりやすい発信に努める
- 環境創造センター交流棟「コミュタン福島」の活用
- 国が策定した「風評払拭・リスクコミュニケーション強化戦略」を踏まえ、関係省庁との連携強化を図り一体的に取り組む



環境創造センター交流棟
 (コミュタン福島)

具体的な取組

県民を対象とした説明会等

食と放射能に関する説明会 / 放射線健康リスク管理アドバイザーの派遣 / 帰還に向けた身の回りの廃棄物等の放射線不安相談 / 放射線に関するリスクコミュニケーションセミナー / 大学と連携した放射線リスクコミュニケーション / 放射線と健康アドバイザーグループ / 放射線の健康理解促進事業 / ふくしまの赤ちゃん電話健康相談 / 避難者向け情報提供（情報紙・交流会・住民説明会等） / 環境再生プラザによる専門家派遣、シンポジウムの開催 / HACCP導入セミナー など

放射線教育

放射線教育・防災教育の発信（授業参観、学習発表会、文化祭等での発表） / 県内7地区の小・中学校をモデル校にした地域・関係機関連携型のモデル実践 / 放射線教育コーディネーターの養成 / 放射線教育実践事例紹介 / 環境創造センター交流棟「コミュタン福島」への来館促進 など

理解促進のための取組

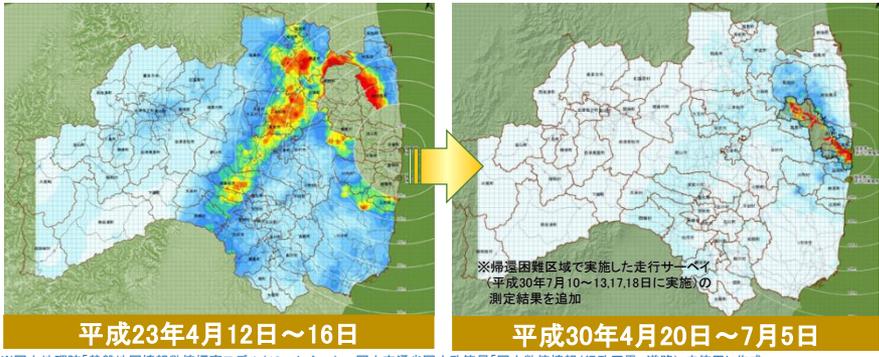
海外政府関係者やプレス等の招へい / 外国語によるホームページやSNSを活用 / 放射性物質検査結果の評価及び助言（市町村対象） / 個人線量計の貸出や放射線の健康影響について理解促進を図る啓発事業への補助（市町村対象） / 健康に関する住民理解を醸成する人材育成（県立医大） / 学校給食に地場産物を活用（保護者等の不安軽減・加工品等開発・学校給食関係者等による理解促進のための協議会） / 農林水産物モニタリング分析施設の公開（視察受入） / 原発の状況の情報発信 / IAEAと連携した職員向けスキル向上セミナーの開催 など

環境回復の取組

除染後のモニタリング、
原発の監視・モニタリング など

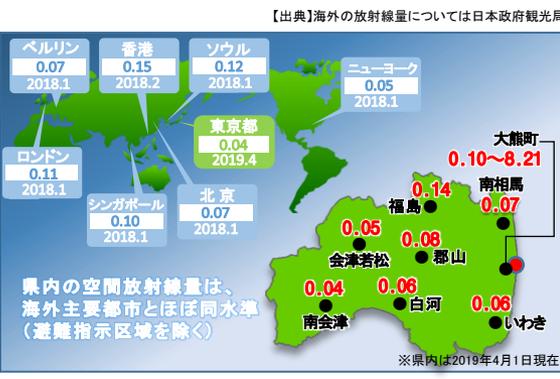
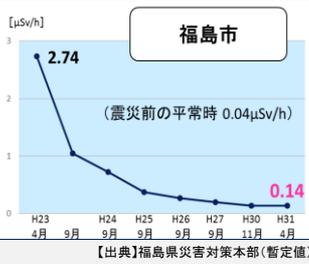
除染後のモニタリング / 東京電力福島第一原子力発電所の監視・情報収集 / 東京電力福島第一原発周辺のモニタリングの強化 / ため池の放射性物質対策 / 森林環境のモニタリング / 中間貯蔵施設の安全の確保 / 環境回復・環境創造に関する調査研究 など

◆福島県環境放射線モニタリング・メッシュ調査結果等に基づく福島県全域の空間線量率マップ



※国土地理院「基盤地図情報数値標高モデル(10mメッシュ)」、国土交通省国土政策局「国土数値情報(行政区界、道路)」を使用し作成。

徹底した除染や放射性物質の減衰等により、県内の空間放射線量は世界の主要な都市と同水準



徹底した食品の検査

- 農林水産物のモニタリング検査
- 米の全量全袋検査
- 肉牛の全頭検査
- 自家消費野菜の検査

県産農林水産物約20万点のモニタリング検査の実施と公表・国の指示に基づく出荷制限等の周知 / 産地における米の全量全袋検査、園芸品目等の自主検査体制の整備支援 / 加工食品等の放射性物質検査 / 水道水・飲用井戸水等の放射性物質モニタリング検査 / 自家消費野菜等（家庭菜園、山菜、キノコなど）の放射能検査 / 県産木材製品・特用林産物のモニタリング情報の発信 / 私立学校の給食と材料の放射性物質検査への経費補助 / 県内製造業者を対象に工業製品や加工食品等の放射能測定 / 食品衛生法上の放射性物質基準値等の講習会開催 など

平成30年度農林水産物の検査結果（平成31年3月31日現在）

| 種別 | 検査数 | 基準値超過数 | 超過数割合 |
|---------------------|--------|-------------|-------|
| 玄米 (平成30年産) | 約920万件 | 0件 | 0.00% |
| 野菜・果実 | 2,455件 | 0件 | 0.00% |
| 畜産物 | 4,336件 | 0件 | 0.00% |
| 栽培山菜 ・きのこ | 945件 | 0件 | 0.00% |
| 海産魚介類 (内水面養殖は省略) | 6,187件 | 0件 (※1件) | 0.00% |
| 野生山菜 ・きのこ | 788件 | 1件 | 0.13% |
| 河川・湖沼 の魚類 | 886件 | 5件 | 0.56% |

基準値超過なし

※漁業協同組合による自主検査で基準値(100Bq/kg)を超過。海産魚介類は県のモニタリングのほか、産地市場における自主検査で出荷の可否を判断。

県産農林水産物については、
世界で最も厳しい放射性物質の基準値による検査をクリア

一般食品中の放射性セシウムの基準値
(ベクレル/kg)

| 日本 | EU | 米国 | CODEX |
|-----|-------|-------|-------|
| 100 | 1,250 | 1,200 | 1,000 |